

科 目

【英】	保健体育 【Health and Physical Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	水曜	時 限	2 限

担当教員	渡辺 久美子	実務者経験	2002 年 大阪体育大学にて中学校体育教諭第 1 種免許状取得 2015 年～ 訪問鍼灸専門スマイル治療院開院
------	--------	-------	---

学習内容	また実践で（今すぐ）行える処置ならびに運動療法等の習得を目指す。
到達目標	西洋医学的な立場から臨床現場において必要な処置および治療等に関する医学的知識の習得。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【配布資料】あり
留意点 備 考	

成績評価	本試験 100%
------	----------

授業計画【内容・目標】		
1	頭部のスポーツ外傷	分類と救急処置
2	顔面のスポーツ外傷	分類と処置
3	リハビリテーション とスポーツ復帰①	運動療法と復帰時期についての理論
4	リハビリテーション とスポーツ復帰②	運動療法と復帰時期についての実践
5	スポーツと栄養	アスリートに必要な栄養素と摂取法
6	性別、年代別のス ポーツ①	女性とスポーツ、中高年とスポーツ、成長期とスポーツ①
7	性別、年代別のス ポーツ②	女性とスポーツ、中高年とスポーツ、成長期とスポーツ②
8	内科的疾患と運動療 法①	代表的な疾患の運動療法と注意点①
9	内科的疾患と運動療 法②	代表的な疾患の運動療法と注意点②
10	ストレッチの基礎と 実技	ストレッチの種類と効果
11	試験	試験
12	テスト解説、まとめ	

授業計画【内容・目標】		
1	競技別のアスリハ (野球)	代表的外傷の予防と治療法
2	実技	肩背部、肘関節周辺への施術
3	実技	野球肩に対しての運動療法
4	競技別のアスリハ (バスケットボール)	代表的外傷の予防と治療法
5	実技	下肢への施術
6	実技	バスケットボール選手への下肢運動器疾患への運動療法
7	競技別のアスリハ (陸上)	代表的外傷の予防と治療法
8	実技	下肢への施術
9	実技	陸上選手への運動療法
10	試験前復習	
11	試験	試験
12	テスト解説、まとめ	

科 目

【英】	経営マネジメント 【Office Management】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	2 学期	曜 日	金曜	時 限	2 限

担当教員	柳野 隆生	実務者経験	～1970 年 弁理士試験合格・関西大学法学部卒 1970 年～1975 年 大手化学会社・知財法務事務所勤務 1975 年～国際知財法務事務所を開設し、知財法務・研究開発・ベンチャービジネス育成とトップ育成を融合した業務を行い、実務経験を得る
------	-------	-------	--

学習内容	開業に向け、必要な知識を学ぶ。
到達目標	将来に向けて、自己のビジネスプランを作成する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】なし 【配布資料】あり
留意点 備 考	成績評価はビジネスプランの 100 点評価でおこなう。

成績評価	本試験 100%
------	----------

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	これからやらなければならないこととビジネスプランの作成①	独自性、ベンチャー、知の高度化、バイタリティ、専門化、知の連鎖、工夫・改善・開発等の要素の意味の学習
2	これからやらなければならないこととビジネスプランの作成②	ビジネスプラン作成方法について
3	参考になる他の業界の動き、ベンチャービジネスから学ぶ①	国内外のベンチャービジネスの事例。オンリーワン志向となる病院では？ベンチマーク、複合技術等
4	参考になる他の業界の動き、ベンチャービジネスから学ぶ②	まとめ
5	特徴ある技術を持つには？①	多くの事例から特徴ある技術を学ぶ 自分の特許技術を持つにはどうするか
6	特徴ある技術を持つには？②	まとめ
7	特徴あるビジネスモデルを持つには①	マーケティング、CRM、アライアンス等で自己のビジネスモデルをどう作るか
8	特徴あるビジネスモデルを持つには②	他のビジネスモデルの事例から学ぶ ビジネスプランの提出
9	できる・できないあなたが変われば院も変わる	信頼される接遇のイロハ①
10	できる・できないあなたが変われば院も変わる	信頼される接遇のイロハ②
11	試験	試験
12	復習	

科 目

【英】	臨床医学総論② 【Clinical Medicine in General】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：月曜 2 学期：月曜 3 学期：土曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：1 限 3 学期：1,2 限

担当教員	真田 浩二	実務者経験	2000 年 4 月～2002 年 3 月 鍼灸院に所属 往診および鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	---

学習内容	現代医学的な観点からの診察学〔検査法・主な症状の診察法など〕・治療学・臨床心理を学ぶ。 鍼灸師に必要な項目のみならず、幅広く現代医学的鑑別診断による病態把握を学ぶ。
到達目標	症候から現代医学的な観点で鑑別診断ができる。臨床の場において実際に活用できるレベル、 かつはり師・きゅう師国家試験に対応できるレベルに到達する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学の予習が必要。臨床医学各論との関連を復習する。
使用教材	配布プリント「臨床医学総論」
留意点 備考	副教材として解剖学・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	各学期に約 5 回小テスト実施。期末試験 80%＋小テスト 20%で評価。再試験は試験 100%、小テストは含まない。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	診断学 32	全身状態の診察 15【皮膚・粘膜・皮下組織 4】
2	診断学 33	全身状態の診察 16【皮膚・粘膜・皮下組織 5】
3	診断学 34	全身状態の診察 17【皮膚・粘膜・皮下組織 6】
4	診断学 35	全身状態の診察 18【皮膚・粘膜・皮下組織 7】
5	診断学 36	局所状態の診察 1【頭頸部 1】
6	診断学 37	局所状態の診察 2【頭頸部 2】
7	診断学 38	局所状態の診察 3【胸部・腹部】
8	診断学 39	局所状態の診察 4【直腸・肛門・外性器・背部】
9	診断学 40	局所状態の診察 5【四肢】
10	診断学 41	そのほかの診察【関節可動域・救急時・女性・小児・高齢者】 臨床検査 1【概要・尿検査 1】
11	試験	
12	試験解答・解説	試験の解答および解説

授業計画【内容・目標】		
1	診断学 42	臨床検査 2【尿検査 2・糞便検査・血液検査】
2	診断学 43	臨床検査 3【血液生化学検査】
3	診断学 44	臨床検査 4【免疫学的検査】
4	診断学 44	臨床検査 4【自己抗体検査】
5	診断学 44	臨床検査 4【喀痰検査】
6	診断学 44	臨床検査 4【髄液検査】
7	診断学 44	臨床検査 4【関節液検査】
8	診断学 45	生命徴候の診察 1【体温】
9	診断学 46	生命徴候の診察 2【脈拍】
10	診断学 47	生命徴候の診察 3【血圧 1】
11	試験	試験
12	試験解答・解説	試験の解答および解説

授業計画【内容・目標】		
1	診断学 48	生命徴候の診察 4【血圧 2】
2	診断学 49	生命徴候の診察 5【呼吸】
3	診断学 50	身体計測・神経系の診察 1【感覚系の診察 1】
4	診断学 51	神経系の診察 2【感覚系の診察 2】
5	診断学 52	神経系の診察 3【反射の診察】
6	診断学 53	神経系の診察 4【脳神経系の診察 1】
7	診断学 54	神経系の診察 4【脳神経系の診察 2】
8	診断学 54	神経系の診察 4【髄膜刺激症状の診察 1】
9	診断学 55	神経系の診察 5【運動機能の診察 2】
10	診断学 56	神経系の診察 6【運動機能の診察 2】
11	診断学 57	神経系の診察 7【運動機能の診察 3】
12	治療学 臨床心理	治療学 臨床心理

科 目

【英】	臨床医学各論③ 【Clinical Medicine Part】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	1.2 学期：月曜	時 限	1 学期：1 限 2 学期：2 限

1 学期 担当教員	山口 隆平	1 学期 実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成 16 年 4 月～平成 17 年 10 月）
2 学期 担当教員	後藤 卓	2 学期 実務者経験	2001 年 4 月～2003 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	臨床医学各論は各疾患の症状や検査などについて学ぶもので解剖学や生理学の基礎を基に各疾患について深く講義していく。
到達目標	現代医学的な観点からの臨床医学を学ぶ。各疾患の概念、疫学、病因、病態生理、症状、診断、治療などを理解し、臨床の場において実際に活用できるレベル、かつ国家試験に対応できるレベルまでを学ぶことを目標とする。

準備学習 時間外学習	1 年次、2 年次に学んだ解剖学・生理学の復習
使用教材	【教科書】臨床医学各論 【配布資料】あり
留意点 備 考	なし

成績評価	各学期に 4 回小テストを実施。期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	---

授業計画【内容・目標】		
1	代謝・栄養疾患①	糖代謝異常〔糖尿病〕・脂質代謝異常〔高脂血症〕
2	代謝・栄養疾患②	脂質代謝異常〔肥満症・るいそう〕
3	代謝・栄養疾患③	尿酸代謝異常〔高尿酸血症・痛風〕 その他の代謝異常症〔ビタミン欠乏症過剰症・骨軟化症・くる病〕
4	循環器疾患①	心臓疾患〔心不全・心臓弁膜疾患〕
5	循環器疾患②	心臓疾患〔不整脈・その他〕冠動脈疾患〔狭心症・心筋梗塞〕
6	循環器疾患③	動脈疾患〔動脈硬化症・大動脈瘤・大動脈解離〕
7	循環器疾患④	血圧異常〔高血圧症・低血圧症〕
8	消化管疾患①	口腔疾患〔歯周病・顎関節症・その他の口腔疾患〕 食道疾患〔食道癌・食道炎・食道潰瘍・その他の食道疾患〕
9	消化管疾患②	胃・十二指腸疾患〔胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃癌・その他の胃・十二指腸疾患〕
10	消化管疾患③	腸疾患〔急性腸炎・潰瘍性大腸炎・クローン病・ 過敏性腸症候群・虫垂炎・大腸癌・腸閉塞〕
11	試験	試験
12	消化管疾患④	腸疾患〔その他の腸疾患〕 腹膜疾患〔急性腹膜炎・結核性腹膜炎・癌性腹膜炎〕

授業計画【内容・目標】		
1	その他の領域①	一般外科〔損傷概論・ショック・救急処置・心肺蘇生術〕
2	その他の領域②	麻酔科〔全身麻酔〕 麻酔科〔局所麻酔〕
3	その他の領域④	精神科疾患〔神経症・統合失調症・うつ病・アルコール依存症〕
4	その他の領域⑤	心療内科〔心身症・神経性食欲不振症・神経性過食症〕
5	まとめ	これまでの授業の内容のまとめ
6	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
7	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
8	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
9	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
10	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
11	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習
12	国家試験対策	これまでの授業の内容を国家試験の出題傾向をもとに復習

科 目

【英】	リハビリテーション医学② 【Rehabilitation Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	木曜	時 限	1,2 限 : 2 限 3 学期 : 1 限

担当教員	中塚 和樹	実務者経験	2002 年 4 月～ 大和中央病院所属。 外来・入院の急性期～回復期までのリハビリテーションを行う。
------	-------	-------	--

学習内容	一般病院でのリハビリテーション対象疾患となる病態の理解と基本的な運動療法知識の習得。
到達目標	各疾患に対する運動療法に対して必要な知識と基礎的な評価・運動療法技術の習得。

準備学習 時間外学習	運動学・解剖学・各種病態の基礎知識の理解を進める。
使用教材	リハビリテーション医学 第 4 版（東洋療法学校協会） 配布プリント
留意点 備 考	授業のはじめと最後に同一の小テストを行い、授業内での予習復習を行うこと。 授業行う教室は適宜変更していくため、確認しておくこと。

成績評価	期末試験 100%
------	-----------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	脊髄損傷 1	①脊髄損傷の後遺症 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室
2	脊髄損傷 2	①脊髄損傷の運動療法概論 ②教科書 実技可能な服装 ③プリント PC プリント車椅子 松葉杖 ④実技室
3	切断	①切断の合併症 義足について ②教室 ③プリント PC プロジェクター ④教室
4	小児リハ 1	①正常発達の理解 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室
5	小児リハ 2	①脳性麻痺の定義・分類の理解。②教科書③プリント・PC・プロジェクター④教室
6	リウマチ	①リウマチの病体生理と変形予防の運動療法②教科書 ③プリント PC プロジェクター④教室
7	末梢神経障害	①末梢神経損傷の病体生理（各変形の生理）②教科書 ③プリント PC・プロジェクター
8	パーキンソン病	①パーキンソン病の病体生理②教科書③プリント PC プロジェクター④教室
9	呼吸器疾患 （胸郭の運動学）	①慢性閉塞性肺疾患の病体生理（呼吸生理学・運動学）②教科書・実技可能な服装 ③プリント PC プロジェクター ラジカセ 聴診器 ④実技室/ 鍼灸実技室
10	1 期まとめ	①試験前まとめ ②教科書 プリント ③ PC プロジェクター ④教室
11	試験	試験
12	1 期試験解説と 形態測定	①試験解説 四肢長測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③プリント メジャー ④実技室

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	形態測定	①周径測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③プリント メジャー ④実技室
2	関節可動域測定 1	①上肢の関節可動域測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③教科書 ④実技室
3	関節可動域測定 2	①下肢の関節可動域測定 ②教科書 計測しやすい服装 ③教科書 ④実技室
4	肩関節周囲炎 (肩関節運動学)	①肩関節の機能解剖学と肩関節周囲炎の病態と運動療法(関節可動域改善と筋力強化) ②教科書 P134～P137 P202～P208 ③プリント 実技可能服装 ダンベル PC プロジェクター④鍼灸実技室
5	腰痛 (脊椎運動学)	①腰痛の病体生理(腰椎・骨盤の運動学)②教科書・実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター 簡易ベッド ④基礎医学教室/鍼灸実技室
6	変形性膝関節症 (膝関節運動学)	①変形性膝関節症の病体生理(膝関節の運動学)②教科書・実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター 簡易ベッド テーピング ④基礎医学教室/鍼灸実技室
7	変形性股関節症 大腿骨頸部骨折 (股関節運動学)	①大腿骨頸部骨折の病体生理(股関節の運動学)②教科書 ③プリント PC プロジェクター 簡易ベッド ④基礎医学教室/鍼灸実技室
8	徒手筋力テスト 1	①上肢の徒手筋力測定 ②教科書 測定しやすい服装 ③プリント ④実技室
9	徒手筋力テスト 1	①下肢の徒手筋力測定 ②教科書 測定しやすい服装 ③プリント ④実技室
10	2 期まとめ	①試験前まとめ②教科書 プリント ③PC プロジェクター ④教室
11	試験	試験
12	2 期試験解説と 物理療法 1	① 2 期試験解説と物理療法 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	物理療法 2	①物理療法 ②教科書 ③プリント PC プロジェクター ④教室
2	関節可動域訓練 1 (頸椎足関節運動)	①頸椎 足関節の関節可動域訓練 ②教科書・実技が可能な服装 ③プリント④実技室
3	関節可動域訓練 2 (肩・股関節)	①肩 股関節の関節可動域訓練 ②教科書・実技が可能な服装③プリント④実技室
4	筋力トレーニング 1	①筋力増加のメカニズム 上肢の筋力強化方法 ②教科書 実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター ダンベル等 ④実技室
5	筋力トレーニング 2	①体幹下肢の筋力強化方法 ②教科書 実技が可能な服装 ③プリント PC プロジェクター ダンベル等 ④実技室
6	国家試験対策 1	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
7	国家試験対策 2	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
8	国家試験対策 3	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
9	国家試験対策 4	①過去問を各疾患別に分けた問題を行う。②教科書等 ③プリント PC プロジェクター④教室
10	3 期まとめ	①試験前まとめ②教科書プリント③PC プロジェクター④教室
11	試験	試験
12	3 期試験解説と 総まとめ	①試験解説 国家試験対策②教科書・プリント③PC プロジェクター④教室

科 目

【英】	東洋医学臨床論③ 【Clinical Oriental Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	1 学期	曜 日	土曜	時 限	1.2 限

担当教員	松本 栞	実務者経験	2013 年 3 月～2014 年 9 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
------	------	-------	---

学習内容	症候・疾患に対して現代医学的・東洋医学的観点からの病態生理、治療方法、施術の適応判断を学ぶ。
到達目標	臨床において現代医学的・東洋医学的両方の観点から症候・疾患を分析し、治療方法を考える力を身につける。 国家試験合格に必要な知識を身につける。

準備学習 時間外学習	東洋医学的観点からの診断において、東洋医学概論の基礎知識の復習が必要となる。 現代医学的観点からの診断において、臨床医学各論、臨床医学総論の復習・関連付けが必要となる。
使用教材	教科書『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』（東洋療法学校協会編） 配布資料・B5 ファイル
留意点 備考	特になし

成績評価	小テストを実施、学期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	----------------------------------

授業計画【内容・目標】		
1	スポーツ障害①	【上肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
2	スポーツ障害②	【上肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
3	スポーツ障害③	【上肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
4	スポーツ障害④	【下肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
5	スポーツ障害⑤	【下肢】現代医学的病態把握・適応疾患・治療方針 東洋医学的考え方：分類・弁証など
6	高齢者医療	現代医学的病態把握
7	高齢者医療	現代医学的病態把握
8	高齢者医療	現代医学的病態把握
9	診察の記録・評価法	施術記録（SOAP分類）・痛みの評価
10	診察の記録・評価法	各種領域の評価法（耳鼻科・消化器科・婦人科・泌尿生殖器科・精神科・高齢者）
11	試験	試験
12	試験解説	

科 目

【英】	関係法規 【Legal Issues in Medicine】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	48	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	1.2 学期	曜 日	1 学期：金曜 2 学期：水曜	時 限	1 学期：2 限 2 学期：1 限

担当教員	山口 隆平	実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成 16 年 4 月～平成 17 年 10 月）
------	-------	-------	--

学習内容	はり師・きゅう師の国家試験、開業に必要な法規を学ぶ。
到達目標	・はり師・きゅう師国家試験問題に対応できるようになる。 ・開業時に必要な法律が理解できるようになる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	【教科書】関係法規第 7 版
留 意 点 備 考	

成績評価	本試験 70% 平常点 30%
------	-----------------

授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	法規とは？ 評価方法説明
2	はり師・きゅう師に関する法律①	免許と試験
3	はり師・きゅう師に関する法律②	免許と試験
4	はり師・きゅう師に関する法律③	施術に関する注意 施術所に関する規則
5	はり師・きゅう師に関する法律④	名称制限・広告制限・罰金・罰則
6	法と実定法	法とは何か 法の種類
7	国試演習①	問題演習
8	国試演習②	問題演習
9	国試演習③	問題演習
10	国試演習③	問題演習
11	試験	試験
12	試験解説	

授業計画【内容・目標】		
1	医事法規と医療制度・医療法	病院・診療所・助産所について
2	国家試験願書下書き	願書練習
3	国家試験願書本番	願書本番
4	医療法	病院・診療所・助産所について
5	医師法 その他の医療従事者に関する法律 衛生関係法規	各医療従事者の法律 保健一般・予防衛生・環境衛生に関する法律
6	社会福祉関係法規 社会保険関係法規	福祉の7法 医療保障制度
7	国試演習①	問題演習
8	国試演習②	問題演習
9	国試演習③	問題演習
10	国試演習④	問題演習
11	試験	
12	試験解説	

科目

【英】	はりきゅう実技⑦～臨床応用学Ⅰ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期: 水曜 2 学期: 木曜 3 学期: 火曜	時 限	1 学期: 1 限 2 学期: 1 限 3 学期: 2 限

1 学期 担当教員	向井 陽子	実務者経験	2006 年～ 向井鍼灸院開院 国内外でスポーツメディカルトレーナーとして活動
2 学期 担当教員	佐々木 友子	実務者経験	鍼灸院開業 臨床経験 15 年以上
3 学期 担当教員	篠塚 知恵子	実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう

学習内容	先哲が臨床でよく使う経穴の主治、取穴、刺鍼法、施灸法を学ぶ。 古代九鍼（接触鍼、摩擦鍼）、十二刺を学ぶ。
到達目標	頻用穴を取穴し、安全に且つスムーズに刺鍼、施灸ができる。 古代九鍼、十二刺を覚え、臨床で応用できる。

準備学習 時間外学習	経穴の取穴部位の学習。刺鍼練習台等で刺鍼練習、紙上施灸により基本技術を繰り返す。
使用教材	配布プリント、経絡経穴学の教科書 ディスプレイ鍼、小児鍼セット、審美六鍼、もぐさ、灸点紙
留意点 備 考	学校で決められたこと（容姿、準備、片付けなど）を守る。 実技は危険を伴うことがあるので、私語を慎み、説明をよく聞き、慎重に行う。

成績評価	本試験 100%で評価する。
------	----------------

1 学期 授婦雇画【内容&目次】		
1	導入	・ 授業の内容・評価方法の説明を行い、授業に対する目的を決めてもらう。 ・ 鍼灸のおもしろさを体感してもらい、運動療法にふれる。
2	スポーツ鍼灸 1	【姿勢評価①】 ・ 簡易姿勢評価、ROM、MMT を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 下腿部浮腫と筋緊張をとり、姿勢を整えるようになる。
3	スポーツ鍼灸 2	【姿勢評価②】 ・ 簡易姿勢評価、バランス評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 筋膜に対して鍼のアプローチが出来るようになり、循環障害改善が出来るようになる。
4	スポーツ鍼灸 3	【足関節捻挫】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、足関節捻挫を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行う運動、ストレッチもアドバイス出来るようになる。
5	スポーツ鍼灸 4	【シンスプリント】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、シンスプリントを鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
6	スポーツ鍼灸 5	【肉離れ】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、肉離れを鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
7	スポーツ鍼灸 6	【野球肘・テニス肘】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、野球肘・テニス肘を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
8	スポーツ鍼灸 7	【腰部痛】 ・ 簡易姿勢評価を行い、身体を客観的に評価していく。 ・ 関係筋と経穴の確認を行い、腰部痛を鍼灸施術で対応出来るようになる。 ・ 施術と平行に行うストレッチもアドバイス出来るようになる。
9	スポーツ鍼灸 8	【復習】 ・ 簡易姿勢評価の小テストを行う。 ・ 今までの疾患に対しての再確認を行い、鍼灸施術で対応出来るようになる。
10	試験	試験

11	試験	試験
12	スポーツ鍼灸 9	【フィードバック・頭皮針】 ・期末試験に対するフィードバックを行う。 ・座位で行う鍼灸施術方法を学び、どのような場面でも対応できるようになる。

2 学期 授婦雇画【内容 8 目 水】		
1	オリエンテーション	治療の実際
2	眼精疲労の治療	弁証、治療法、Q 技指導
3	便秘の治療	弁証、治療法、Q 技指導
4	眩暈の治療	弁証、治療法、Q 技指導
5	肩こりの治療	弁証、治療法、Q 技指導
6	不眠の治療	弁証、治療法、Q 技指導
7	温灸	様々な治療について、実技指導
8	月経不調の治療	弁証、治療法、Q 技指導
9	月経困難症の治療	弁証、治療法、Q 技指導
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	まとめ

3 学期 授婦雇画【内容 8 目 水】		
1	美容鍼灸理論	顔面部の解剖【肌理論】について説明できる。
2	美容鍼灸理論	美容医療の現状について説明できる。
3	美容鍼灸理論	肌トラブルについての言葉を列挙できる。 肌トラブルについて説明できる。
4	美容鍼灸理論	美容鍼灸の効果・効能について説明できる。 美容鍼灸で対称となる表情筋群の名称を列挙できる。
5	美容鍼灸実技	クライアントへのカウンセリングを実践できる。
6	美容鍼灸実技	顔面部への施術部位の確認ができる。 顔面部への施術を実践できる。
7	美容鍼灸実技	カウンセリングの情報をもとに施術内容の立案・実施ができる。
8	美容鍼灸実技	カウンセリングの情報をもとに施術内容の立案・実施ができる。
9	試験前復習	3 学期に学んだ内容を説明できる。 3 学期で学んだ内容を実践できる。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	美容鍼灸実践	クライアントへのカウンセリングの実施し要望を聴取できる。 要望より施術内容の立案・実践ができる。

科 目

【英】	はりきゅう実技⑪～中医診断治療学Ⅱ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	土曜	時 限	1.2 限目

担当教員	副田 恵子	実務者経験	1999 年 4 月～鍼灸院開院 鍼灸院及び往診にて鍼灸施術をおこなう
------	-------	-------	--

学習内容	実際の臨床で使う経絡経穴を使用し、手技の応用や体表観察の技術を疾患ごとに身につける。
到達目標	1、2 年生で習得した手技を発展させ、臨床に生きる治療技術の習得を目標とする。

準備学習 時間外学習	各疾患の東洋医学的理解の復習
使用教材	鍼灸道具 配布プリント
留意点 備考	副教材として経絡経穴概論の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	毎授業に小テストを実施。期末試験 70%＋小テスト 30%で評価する。
------	-------------------------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	2 年時の復習	2 年時で学んだ手技の理解と確認。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
2	肩こり①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
3	肩こり②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
4	腰痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
5	腰痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
6	膝痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
7	膝痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
8	脱毛症①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
9	脱毛症②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで 80%の内容理解到達を目標とする。
10	試験	試験
11	試験	試験
12		

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	顔面痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	顔面痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	歯痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	歯痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	腰下肢痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	腰下肢痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	膝痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	膝痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
9	肩こり・頸肩腕痛①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
10	試験	試験
11	試験	試験
12		

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	肩こり・頸肩腕痛②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
2	月経異常①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
3	月経異常②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
4	食欲不振・肥満①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
5	食欲不振・肥満②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
6	不眠・疲労倦怠①	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
7	不眠・疲労倦怠②	東洋医学的病因病機の知識を理解し、臨床で通じる手技を身につける。 小テストで80%の内容理解到達を目標とする。
8	後期の復習①	後期に学んだ事の復習 実技テスト練習
9	後期の復習②	後期に学んだ事の復習 実技テスト練習
10	試験	試験
11	試験	試験
12		

科 目

【英】	はりきゅう実技⑨～臨床応用学Ⅰ～ 【Practice of Acupuncture and Moxibustion】			必修/選択	必修	授業形式	実習
				総時間数	72	単 位	2
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1.2 学期：火曜 3 学期：金曜	時 限	2 限

1.2 学期 担当教員	翁 祖耀	実務者経験	1974 年～ おきな鍼灸治療院 開業
3 学期 担当教員	川内 良典	実務者経験	様々流派の治療法を学び、『素問』『靈枢』の医古文が最も重要であることを実感する。現在『素問』『靈枢』を臨床に応用し、鍼灸を行う。

学習内容	1.2 学期：疾患をあげ、その疾患で使用する経穴の穴性を説明し何故この疾患の時に使用されるのかを理解する。技術においても疾患・症状・状態に適応した技術を行えるようにする。 3 学期：『素問』『靈枢』十二刺、経絡、重要穴を臨床に応用する。
到達目標	1.2 学期：臨床実習や卒後の知識・技術の向上を達成目標とする。 3 学期：上手下手、評価にとらわれず、自ら考え、積極的に臨床を行えるようになる。 『素問』『靈枢』の記載を臨床応用できる力をつける。

準備学習 時間外学習	1.2 学期：経穴の取穴部位の学習。刺鍼練習台等で刺鍼練習、紙上施灸により基本技術を繰り返す。 3 学期：五臓六腑の病証、十二経脈の流注及び病証、五行穴、要穴を覚えておくこと。
使用教材	配布プリント、経絡経穴学の教科書 ディスプレイ鍼、小児鍼セット、審美六鍼、もぐさ、灸点紙
留意点 備 考	学校で決められたこと（容姿、準備、片付けなど）を守る。 実技は危険を伴うことがあるので、私語を慎み、説明をよく聞き、慎重に行う。

成績評価	1.2 学期：実技試験 70 点 平常点 30 点 3 学期：本試験 100%で評価する。【本試験は実技と、口頭試問または筆記試験で行う。】※平常点の加減あり
------	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	1・2 年次の復習①	・手の要穴の取穴 ・取穴への刺鍼練習及び刺入寸度の確認
2	1・2 年次の復習②	・手の要穴の取穴 ・取穴への刺鍼練習及び刺入寸度の確認
3	鍼灸実技実習①	・鍼灸実技の注意点 ・医療過誤とその対処法について
4	鍼灸実技実習②	・背部の取穴と刺鍼 ・腹部の取穴と刺鍼
5	鍼灸実技実習③	・灸練習（米粒大、半米粒大）紙上灸・八分灸（人体）
6	運動器系疾患①	・運動器系疾患の治療法について
7	運動器系疾患②	関節系疾患について （股関節・膝関節・足関節ほか）
8	運動器系疾患③	・五十肩・腱板炎・野球肘ほか
9	運動器系疾患④	・骨膜、筋および腱疾患について （腱鞘炎、肉離れ、寝違いほか）
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	1 学期の復習①	・運動器疾患について
2	1 学期の復習②	・運動器疾患について
3	運動器系疾患⑤	・その他の症候群について (急性腰痛、慢性腰痛、椎間板ヘルニアほか)
4	運動器系疾患⑥	・その他の症候群について (急性腰痛、慢性腰痛、椎間板ヘルニアほか)
5	運動器系疾患⑦	・頸肩腕症候群について (肩こり、胸郭出口症候群ほか)
6	神経系疾患①	・神経系疾患の治療法について (三叉神経痛、後頭神経痛ほか)
7	神経系疾患②	・神経系疾患の治療法について (肋間神経痛ほか)
8	神経系疾患③	・神経系疾患の治療法について (坐骨神経痛ほか)
9	神経系疾患④	・その他の神経系疾患について (顔面神経麻痺ほか)
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	

授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション、 十二刺	十二刺概要。報刺、恢刺、斉刺の解説、実技指導 報刺、恢刺、斉刺を安全に臨床で応用できる。
2	十二刺	揚刺、直鍼刺、短刺の解説、実技指導 揚刺、直鍼刺、短刺を暗線に臨床で応用できる。
3	十二刺	浮刺、陰刺、傍鍼刺の解説、実技指導 浮刺、陰刺、傍鍼刺を安全に臨床で応用できる。
4	俞募配穴（偶刺） 1	十二経脈・臓腑の診断、腹部募穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。内臓の部位を確認し、募穴に安全に刺鍼、施灸を行う。
5	俞募配穴（偶刺） 2	十二経脈・臓腑の診断、背部俞穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。内臓の部位を確認し、背部俞穴に安全に刺鍼、施灸を行う。
6	原穴（輪刺）	十二経脈・臓の診断、原穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。臨床に應用する。
7	下合穴（遠道刺）	十二経脈・腑の診断、俞穴の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。臨床に應用する。
8	頸部の経穴	十二経脈・臓腑の診断、頸部の取穴、触診、刺鍼、施灸法。 診断から選穴に結びつける。臨床に應用する。
9	原絡治療	十二経脈・臓腑の診断、原絡治療。 診断から主客を決め、臨床に應用する。
10	試験	試験
11	試験	試験
12	まとめ	今までの実技の総まとめ 十二経脈、臓腑の診断を行い、選穴し、治療を行う。

科 目

【英】	臨床実習② 【Clinical Education】			必修/選択	必修	授業形式	臨床実習
				総時間数	90	単 位	3
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	火・金曜	時 限	1 限

担当教員	丸茂 美保子	実務者経験	1992 年～2004 年 鍼灸院、整形外科に所属 2004 年～2014 年 教員養成・専門学校専任教員 2014 年開業
担当教員	村上 朱保	実務者経験	臨床検査技師、はり師きゅう師の国家資格、進級教員免許を保有 臨床検査技師として病院にて 10 年 9 か月 鍼灸師として 7 年間の臨床経験あり 中国の大学病院において中医師インターンとして 5 年間の実務経験あり 2015 年～鍼灸専門学校にて講義・実習を担当

学習内容	学内臨床施設にて学生や学外の患者への対応を実習担当教員の監視の下、実習をおこなう。
到達目標	臨床現場にて、医療面接から得た情報をもとに治療の方針を計画し、実施できる。

準備学習 時間外学習	3 年次までに学んだ事柄をまとめておく。
使用教材	鍼灸施術用具
留意点 備 考	・基本的には 100%出席にて評価対象となる。 ・担当教員の指導に従う。

成績評価	別紙『臨床実習ガイドライン』参照
------	------------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	オリエンテーション	臨床実習についてのオリエンテーション カルテ記載の方法など
2	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
3	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
4	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
5	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
6	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
7	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
8	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
9	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
10	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
11	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
12	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
2	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
3	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
4	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
5	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
6	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
7	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
8	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
9	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
10	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
11	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
12	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
2	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
3	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
4	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
5	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
6	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
7	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
8	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
9	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
10	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
11	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習
12	臨床実習	来院された方への施術 学生同士での施術、面接練習

科 目

【英】	総合領域① 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：火金 2 学期：火金 3 学期：木曜	時 限	1 学期：1 限 2 学期：1 限 3 学期：2 限

1 学期 担当教員	篠塚 知恵子	1 学期 実務者経験	2015 年 7 月～2016 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう				
2.3 学期 担当教員	山口 隆平	2.3 学期 実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成 16 年 4 月～平成 17 年 10 月）				

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。						
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。						

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。						
使用教材	配布資料あり						
留意点 備 考							

成績評価	1.3 学期：平常点【小テスト】にて評価【100%】 2 学期：定期試験+小テストにて評価						
------	---	--	--	--	--	--	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	衛生学・公衆衛生学①	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
2	衛生学・公衆衛生学②	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
3	衛生学・公衆衛生学③	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
4	衛生学・公衆衛生学④	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
5	衛生学・公衆衛生学⑤	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
6	衛生学・公衆衛生学⑥	国家試験対策 国家試験に出題される衛生学・公衆衛生学の範囲の言葉を想起できる。
7	病理学①	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
8	病理学②	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
9	病理学③	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
10	病理学④	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
11	病理学⑤	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。
12	病理学⑥	国家試験対策 国家試験に出題される病理学の範囲の言葉を想起できる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	肝臓・胆のう・膵臓	解剖・生理について説明できる。
2	肝臓・胆のう・膵臓	疾患について想起できる。
3	腎臓・泌尿器	解剖・生理について説明できる。
4	腎臓・泌尿器	解剖・生理について説明できる。
5	腎臓・泌尿器	疾患について想起できる。
6	消化器	解剖・生理について説明できる。
7	消化器	解剖・生理について説明できる。
8	消化器	疾患について想起できる。
9	膠原病	典型 6 疾患を列挙できる。
10	膠原病	疾患について想起できる。
11	生殖器	男性生殖器について説明できる。
12	生殖器	女性生殖器について説明できる。

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	婦人科疾患	子宮頸癌～子宮内膜症について説明できる。
2	眼科疾患	解剖の言葉を列挙できる。 疾患について想起できる。
3	内分泌	解剖・生理について説明できる。
4	内分泌	生理について説明できる。
5	内分泌	疾患について想起できる。
6	呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患について説明できる。
7	呼吸器疾患	拘束性呼吸器疾患について説明できる。
8	病理学	総まとめ
9	病理学	総まとめ
10	病理学	総まとめ
11	血液疾患	貧血
12	血液疾患	白血病・紫斑病・血友病

科 目

【英】	総合領域② 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	72	単 位	4
学 年	3 年生	学 期	通 年	曜 日	1 学期：木曜 2 学期：土曜 3 学期：火金	時 限	1 学期：1 限 2 学期：1,2 限 3 学期：1 限

1.2 学期 担当教員	高木 健之	実務者経験	専門学校臨床施設にて2年間施術を担当し実務経験を得る				
3 学期 担当教員	後藤 卓	実務者経験	2001 年 4 月～2003 年 3 月 鍼灸院に所属 鍼灸院にて鍼灸施術をおこなう				

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。						
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。						

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。						
使用教材	配布資料あり						
留 意 点 備 考							

成績評価	1 学期：本試【70%】+小テスト【30%】 2,3 学期：平常点【小テスト】にて評価【100%】						
------	---	--	--	--	--	--	--

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
2	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
3	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
4	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
5	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
6	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
7	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
8	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
9	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
10	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
11	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
12	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。

2 学期 授業計画【内容・目標】		
1	国家試験対策①	衛生学・公衆衛生学の言葉を列挙できる
2	国家試験対策②	解剖学の言葉を列挙できる
3	国家試験対策③	解剖学の言葉を列挙できる
4	国家試験対策④	解剖学の言葉を列挙できる
5	国家試験対策⑤	生理学の言葉を列挙できる
6	国家試験対策⑥	生理学の言葉を列挙できる
7	国家試験対策⑦	病理学の言葉を列挙できる
8	国家試験対策⑧	臨床医学総論の言葉を列挙できる
9	国家試験対策⑨	臨床医学総論の言葉を列挙できる
10	国家試験対策⑩	臨床医学各論の言葉を列挙できる
11	国家試験対策⑪	臨床医学各論の言葉を列挙できる
12	国家試験対策⑫	臨床医学各論の言葉を列挙できる

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	国家試験対策①	東洋医学概論の言葉を列挙できる
2	国家試験対策②	東洋医学概論の言葉を列挙できる
3	国家試験対策③	東洋医学概論の言葉を列挙できる
4	国家試験対策④	東洋医学概論の言葉を列挙できる
5	国家試験対策⑤	東洋医学概論の言葉を列挙できる
6	国家試験対策⑥	東洋医学概論の言葉を列挙できる
7	国家試験対策⑦	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
8	国家試験対策⑧	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
9	国家試験対策⑨	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
10	国家試験対策⑩	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
11	国家試験対策⑪	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる
12	国家試験対策⑫	東洋医学臨床論の言葉を列挙できる

科 目

【英】	総合領域③ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	水曜	時 限	2 限

担当教員	松本 栞	実務者経験	2013 年 3 月～2014 年 9 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸治療を担当
------	------	-------	---

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	1,2 年生で学習した内容を復習しておく。
使用教材	配布資料あり
留意点 備考	

成績評価	小テストにて評価【100%】
------	----------------

1 学期 授業計画【内容・目標】		
1	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
2	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
3	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
4	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
5	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
6	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
7	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
8	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
9	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
10	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
11	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。
12	東洋医学臨床論	国家試験対策 国家試験に出題される東洋医学系の範囲の言葉を想起できる。

科 目

【英】	総合領域④ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	水曜	時 限	2 限

担当教員	藤原 法香	実務者経験	2017 年 4 月～2018 年 10 月 鍼灸整骨院に所属 鍼灸整骨院にて鍼灸施術をおこなう。
------	-------	-------	--

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	1.2 年生で学習した内容を復習しておく。
使用教材	配布資料あり
留意点 備 考	

成績評価	小テストにて評価【100%】
------	----------------

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
2	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
3	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
4	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
5	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
6	生理学	生理学の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される生理学の内容を説明できる。
7	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
8	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
9	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
10	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
11	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。
12	臨床医学各論	臨床医学各論の言葉を列挙できる。 国家試験に出題される臨床医学各論の内容を説明できる。

科 目

【英】	総合領域⑤ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	月曜	時 限	1 限

担当教員	藤田 和樹	実務者経験	2012 年～2015 年 整骨院勤務 治療補助など担当 2009 年～高校ラグビー部トレーナー帯同 AT 業務全般担当
------	-------	-------	---

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	1,2 年生で学習した内容を復習しておく。
使用教材	配布資料あり
留意点 備 考	

成績評価	小テストにて評価【100%】
------	----------------

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
2	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
3	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
4	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
5	解剖学	筋骨格系の解剖の言葉を列挙できる。
6	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
7	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
8	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
9	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
10	臨床医学各論	整形外科分野の疾患を想起できる。 整形外科分野の疾患について説明できる。
11	リハビリテーション 医学	国家試験に出題される範囲のリハビリテーション医学の言葉を列挙できる。
12	リハビリテーション 医学	国家試験に出題される範囲のリハビリテーション医学の言葉を列挙できる。

科 目

【英】	総合領域⑥ 【Synthetic Education】			必修/選択	必修	授業形式	講義
				総時間数	24	単 位	1
学 年	3 年生	学 期	3 学期	曜 日	水曜	時 限	1 限

担当教員	山口 隆平	実務者経験	野々村整形外科クリニック（平成16年4月～平成17年10月）
------	-------	-------	--------------------------------

学習内容	はり師・きゅう師国家試験に準じた内容の学習をおこなう。
到達目標	国家試験に合格できる程度の学力をつける。

準備学習 時間外学習	1.2年生で学習した内容を復習しておく。
使用教材	配布資料あり
留意点 考 考	

成績評価	小テストにて評価【100%】
------	----------------

3 学期 授業計画【内容・目標】		
1	経絡経穴概論 東洋医学概論	督脈の取穴部位を説明できる。 気・血・津液の復習
2	経絡経穴概論 東洋医学概論	任脈の取穴部位を説明できる。 五臓の復習
3	経絡経穴概論 東洋医学概論	肺経・大腸経の取穴部位を説明できる。 六腑の復習
4	経絡経穴概論 東洋医学概論	胃経の取穴部位を説明できる。 奇恒の腑の復習
5	経絡経穴概論 東洋医学概論	脾経・心経の取穴部位を説明できる。 病因（外因・内因・不内外因）の復習
6	経絡経穴概論 東洋医学概論	小腸経の取穴部位を説明できる。 八綱病証と気血津液病証
7	経絡経穴概論 東洋医学概論	膀胱経の取穴部位（睛明～会陽）を説明できる。
8	経絡経穴概論 東洋医学概論	膀胱経の取穴部位（承扶～至陰）を説明できる。
9	経絡経穴概論 東洋医学概論	腎経の取穴部位を説明できる。 経絡病証と六経病証
10	経絡経穴概論 東洋医学概論	心包経・三焦経の取穴部位を説明できる。 四診（望診）
11	経絡経穴概論 東洋医学概論	胆経の取穴部位を説明できる。 四診（聞診・問診）
12	経絡経穴概論 東洋医学概論	肝経の取穴部位 奇経八脈を説明できる。 四診（切診）